

硬質硝子黑板販賣價格指定

十二日

△第二回朝鮮經濟警察連絡會議開催、内鮮兩方の各提案十九項目に付協議

十三日

△第三回朝鮮皮革協議會開催、主要革製品の製造業者の統制團體の確立強化其他に付協議

△京城薪材卸商組合創立

十四日

△朝鮮住宅營團令及同施行規則公布即日實施

△價格統制令第七條の規定により甘藷澱粉及自轉車部分品販賣價格指定

△東海電極株式會社(東京に本社を有す)鎮南浦工場設立決定

十五日

△本日より月末迄六億貯蓄強調運動を實施

十六日

△朝鮮海運組合聯合會は朝鮮海運組合令に基く法的組合に改組さる

△朝鮮鑛業令中改正

△朝鮮重要鑛物増産令中改正

△不急金屬回收運動特定期間は本日より三週間

十七日

△鴨綠江水力電氣の流筏操作資金二百萬圓鮮銀及商銀に於て共同貸付決定

十八日

△殖産局は鮮内無煙炭の供給過剩と有煙炭輸入増加困難の爲本年度より新規工場には無煙炭設備を有するものに限り許可するに方針決定

△朝鮮住宅營團設立委員會開催、定款其他可決

△外國爲替管理法第五條の規定に基き在外凍結財産調査規則公布即日實施

△價格統制令第七條の規定によりアルミニウム及アルマイト製家庭器物の販賣價格指定

△朝鮮鑛誌移入組合創立

△朝鮮商工會議所第十回定期總會開催、各商工會議所提出議案審議決定

△南鮮合同電氣株式會社の現在資本金二千六百八十八萬三千圓を一千三百三十一萬七千圓増資、三千五百萬圓に大藏省内認可

△朝鮮屠ゴム配給統制規則公布、七月一日より實施

△ガス需給調整規則公布

△本府は本年産麥類配給の統制方針を決定、各道に通牒

△本府は石油配給統制規則を改正、七月一日より實施に決定

△農地價格倍率の改正告示

△清津・羅津・雄基・城津の各造船所を以てする北鮮造船工業組合結成さる

△内務局は明年度春川及清州二邑を府に昇格決定

△朝鮮勞務協會創立

△農林局は食糧需給對策の爲鮮内を都市・農村・漁村・工場地帯に区分し食糧農産物の消費高調査を開始

△地代家賃統制令施行規則公布即日施行

△郵便貯金規則一部、郵便爲替規則一部及郵便振替貯金規則一部改正實施

△貸金統制令施行規則改正(六月三十日付)公布施行

△朝鮮船員保險法施行規則一部改正實施

△朝鮮經濟日誌(16-7)

五七

△朝鮮經濟統制協力會定期總會開催、連絡會規約改正案其他の案附議可決

二十一日

△殖産局は棉布、タオル、ゴム靴の切符制による配給を實施するに決定、ゴム靴は七月分より實施

△鴨綠江水力電氣の第二次發電計畫地義州に決定さる

△朝鮮石油統制有限會社(資本金三百萬圓)設立認可七月一日より業務開始

二十三日

△本府は現行地代家賃統制令を改正、七月一日より實施決定

二十四日

△漢江水力電氣會社は清平通過の漢江流筏を買収し京春鐵道より京城へ搬出すべく目下遞信當局に堰堤の設計變更許可申請中

△内地の製帽、刷子製造及文房具工場等の朝鮮進出を計畫

二十五日

△第三回朝鮮貿易大會清津に開催、戦時下半島貿易の諸方策に付協議

二十六日

朝鮮住宅營團營業開始

△京慶北部線(原州—堤川間四六キロ)及南部線(慶北安東—榮州間三八・七キロ)開通

二日

△第二十八回朝鮮簡保事業諮問委員會開催、本年度簡保資金融通割當額五百六十四萬四千七百七十六圓、債券引受一千二十二萬餘圓及殖銀(五百萬圓)東拓(三百萬圓)資金貸付決定

△昭和十六年度四月以降六月三十日迄の中小商工業資金融通額は五十二件、四十萬三千三百五十圓、因に融通制實施以來の累計額は一千七百四十一件、五百十二萬七千四百七十圓

三日

△價格統制令第七條の規定により電球の販賣價格指定

四日

△平北道は鴨綠江水電の水豊ダムの貯水池に大規模の淡水魚養殖地設置を計畫

五日

△本府は綿布同製品の統制範圍を擴大、八月一日より實施決定

△價格統制令第七條の規定による食用鹽乾魚介類販賣價

樞中改訂

△朝鮮中小商工業資金融通損失補償規程改正

七日

△本府は本年度實施する全鮮三百五十ヶ所の地下水試錐中第一回二百二十五ヶ所の各道割當決定

八日

△中小商工業者合同促進の爲朝鮮商議は七月十五日現在を以て第二回鮮内企業合同實情調査を行ふ旨
△價格統制令第七條の規定によりクローム明礬の最高販賣價格指定

九日

△鱗狀黒鉛配給調整規則公布、七月十四日より實施
△價格統制令第七條の規定により東京産高級硝子製品の販賣價格指定

十日

△朝鮮興農會収生産競進會調査 昨年十一月以降本年五月迄の各道収總生産高は八千二百七十七萬九千七百二十二枚で生産目標高一億枚に對比し八割二分二厘に相當
△價格統制令第七條の規定により朝鮮産小麦の最高販賣價格指定、七月十五日より實施

△春川商工會議所設立認可

十二日
△内外地物價連絡會議

十三日

△本府では今後新設工場には無煙炭を使用せしむるに決定、各道宛通牒

△鮮銀雄基出張所を商銀に讓渡決定

十四日

△輸出入許可規則改正、朝鮮東亞貿易會社を圓域輸出入調整機關に指定

△朝汽・立石・晃陽三船會社の合併に關する臨時資金調整令に基く認可下附

十五日

△殖産局は九月一日現在の第二回物資現在高調査を全鮮一齊に施行決定

△京城・仁川・開城・清州四商工會議所より組織せる中部商工會議所聯合會第二回會議開催、仁川第二築港工事の完成促進要望の件可決

△第一回特別報國債券(額面壹圓)賣出

十六日

△遞信局は朝鮮を七地區に分け海運組合を結成しその中に聯盟會を設立せしめ小型船舶の統制を斷行するに

決定
十七日

△本府は自給肥料増産運動實施要綱を決定、國民總力聯盟事務總長名に於て各道聯盟會長に通牒

△朝鮮商業銀行と大邱商工銀行、漢城銀行と慶尙合同銀行との合同方針決定の模様

△價格統制令第七條の規定による鶏卵の販賣價格改正、小賣業者の最高販賣價格百及五十七錢

十八日

△本府は明年度より西海岸に水産開發の重點を置き替へ西鮮に水産試驗場設置を計畫

△朝鮮鑛業令施行規則及朝鮮重要鑛物増産令の施行規則改正

△家庭用タオル切符制八月一日より實施決定、一人當年一枚に限る

十九日

△價格統制令第七條の規定により故又は屑ゴムの最高販賣價格指定

二十一日

△朝鮮化學工業(資本金一千萬圓)の日本化成工業への買收決定近く正式調印の模様

二十三日

- △商組の統制及機能發揮の爲一部重要組合及聯合會を指定し理事官選とするに決し本府より各道に通牒
- △朝鮮住宅營團第一回評議員會開催、本年度中京城・平壤・清津に五千戸新築決定
- △輸出爲替豫約取極規則公布、七月二十六日より施行
- △電話電信取扱制限實施
- △朝鮮總督府鑛業出願處分委員會規定む

二十四日

- △ステンレス細工製品の販賣を目的とする朝鮮金屬工藝有限會社設立發起人會開催、定款其他を審議

二十五日

- △農林局は昭和十七年度以降五ヶ年計畫で南鮮・北鮮・中鮮三地區域に區分し農村再編成計畫實施を決定
- △昭和七年以降十四年迄の自作農創定實績は自作農創定計畫一萬九千戸に對し實績は一萬九千七戸、面積は計畫九千五百町歩に對し一萬二千五百五十六町歩
- △鮮滿兩當局發表 鴨綠江水電の山渡し料金(今後二ヶ年を期限とする暫定料金)七厘五毛に決定

二十六日

- △朝鮮運送株式會社増資(資本金一千二百萬圓を三百萬圓増資一千五百萬圓となる)認可

圓増資一千五百萬圓となる)認可

二十八日

- △本府は重要産業團體令の朝鮮實施問題に關し商工省及企畫院と折衝の結果朝鮮には實施せぬことに方針決定
- △殖産局は商業組合令の共同販賣基準等を指示
- △外國爲替管理法に基き朝鮮總督府令第二百十八條外國人關係取引取締規則公布即日實施

二十九日

- △本府は本年度産大麥・小麥・裸麥等麥類の買上資金の融資條項を決定各道知事並金融機關に通牒
- △鮮産大豆十萬石内地移出取極め

三十日

- △農林局は明年度以降十ヶ年繼續で第二次自作農十萬戸創設を計畫
- △昭和十六年産麥類検査標準品査定會開催、各般の劃期的主要案件に付討議
- △遞信局は電力業代表者を招致し懇談の結果朝鮮電力協會を創立決定
- △南鮮合同電氣株式會社増資(資本金二千六百六十八萬三千圓を一千三百三十一萬七千圓増資三千五百萬圓となる)認可

△外國爲替管理法施行規則公布、八月一日より實施

三十一日

- △京畿道第二回産業懇談會開催、部落生産擴充計畫の遂行其他に付懇談
- △京畿道ゴム靴卸賣商組合創立
- △朝鮮石綿ゴム工業會社(資本金百萬圓)設立認可

昭和十六年八月

一日

- △朝鮮金融團緊急總會開催、株式擔保貸出の回收並増擔保要求の差控等決議即日實施
- △本府は人絹織物・綿織物・水産罐詰・魚粉を第三國向重要貿易品目に追加指定
- △朝鮮銀行の公定標準金利引下げ實施、内譯國債擔保貸付並割引一厘引下げ日歩九厘以上、國債以外擔保貸付並割引一厘下げ日歩一錢一厘以上、當座貸越及コレスボンデンス貸越一厘引下げ日歩一錢一厘
- △本年度工業組合事業資金四十萬圓(前年三十萬圓)決定に付本府は其各組合・聯合會の融通割當額を決定
- △朝鮮・立石・晃陽の南鮮三汽船會社統合の西日本汽船會社創立
- △價格統制令第七條の規定により朝鮮産ライ麥の最高販

賣價格指定

- △貿易統制令施行規則公布即日實施
- △朝鮮中央商工相談所業務開始
- △朝鮮無水酒精會社新義州工場操業開始

二日

- △日本協同證券會社は本府並朝取の要請に基き内地市場上場鮮内地株及鮮内生産力擴充株の買出に乘出し朝鮮銀行を其の代行に指定し鮮内地株價の維持安定策に積極的に乗出すことに決定
- △暴利行爲等取締規則改正公布、八月十日より施行
- △殖産局は本年は第三回分ゴム靴各道割當數量三百四十萬足決定

四日

- △煙草罹災補償金初年度の交付額決定
- △價格統制令第七條の規定により洋紙並内地産農具販賣價格指定

五日

- △本府は昭和十五肥料年度第四四半期(十六年一月より三月まで)に於ける各業者に對する助成金を二百八十四萬一千五百九圓に決定
- △咸南漁業組合聯合會は管下各漁業組合に於ける本年度

事業資金を纏め起債認可方を本府に申請、起債總額は三百七萬一千圓

△アセチリン及木炭瓦斯關係各三社合同の朝鮮燃料機合同會社(資本金三百萬圓)の設立決定、仁川に工場設置の筈

△京城商議調査 本年六月末現在の京城府内工場數は總計一千六百、職工數四萬、年産額二億圓推定

△本府水産課調査 昭和十五年度の全鮮寒天製造十八工場に於ける寒天製造高は二十一萬九千六百餘斤、價格百四萬九千八百八十四圓

△朝鮮商工會議所は朝鮮新經濟機構確立案に基き現行法令に抵觸しない範圍に於て立候補者の推薦制を採用する要綱を決定各商議に通牒

△東拓の鮮内事業會社への投資總額は電力關係四千萬圓、地下資源關係三千萬圓、私鐵・化學工業其他約一千三百萬圓

△價格統制令第七條の規定による果實及蔬菜の販賣價格八月十二日より改正

△七月末日の中小商工業資金融通承認額七十三件、五十

六萬九千餘圓

八日

△本府物價調整課は鮮内卸・小賣の物價指數基準昭和八年六月を昭和十二年六月に改正すべく朝鮮物價調査規則改正研究に着手

△農林局は木材の需給圓滑を圖る爲明年度に於ける官有林及民有林の増伐斷行計畫を樹立

△重石・雲母・螢石に増産助成金交付決定

△港灣運送上統制指定海港十二港

九日

△本府は全鮮一齊に勞務技術統計調査を開始

△漢城銀行の慶尙合同銀行買収假契約調印

△トラック運送制限實施

△本府は主要青果十三品目の配給(出荷)統制實施決定

十一日

△朝鮮海運統制に關する官民協議會開催、朝鮮關係主要物資海上輸送統制實施要綱其他に付協議

十二日

△第二次電力統制の逓信局の試案成り年内に電力統制の基礎工作を完了する豫定

十三日

△價格統制令第七條の規定により朝鮮産皮の最高販賣價格指定

十四日

△本府は昭和十六年度に於ける甘藷増産補助金總額十六萬圓の各道割當交付決定

△京畿道第三回産業懇話會開催、燃料問題に關し檢討

△價格統制令第七條の規定により建築金物及家具金物の最高販賣價格指定

十五日

△本府は明年度以降十ヶ年繼續事業で總經費五百萬圓を投じ産業道路開設を計畫

△逓信局は鮮内相互間の物資輸送圓滑化の爲十一月より十數種の重要物資輸送に對し配船管理を實施することに決定

△京城府勸業課は内地商店の無統制進出を防止すべく之が善處方を殖産局に要望

△殖産局は朝鮮に於ける被服既成品類の配給統制要綱を確立各道知事に通牒

△朝鮮貿易協會並朝鮮商議共同主催の港灣運送統制に關する懇談會開催、港灣運送統制令の運用機構組織等に付意見交換

△朝鮮機械製作所第九期定期株主總會開催、現在資本金六百萬圓を二百萬圓増資八百萬圓とす案を可決

△價格統制令第七條の規定により注文洋服の最高販賣價格並最高裁縫料指定、九月十日より施行

十六日

△本府は各種物資配給割當の實績主義を廢止することに方針決定、各道知事、經濟統制協力會中央會並總力聯盟各關係方面に通牒

△本府水産課調査 昨年末現在の全鮮に於ける水産物消費狀況は鹹水魚九千三百四十九萬三千二百二十二疋、淡水魚十七萬八百二十一疋、水産食料品其他一千六十二萬九千二百六十六疋、合計一億四百二十九萬三千二百九疋

十八日

△價格統制令第七條の規定により北海道産豆類最高販賣價格指定

十九日

△朝鮮商業銀行と大邱商工銀行との合併假契約調印

△朝鮮商議全鮮企業合同數第二回調査結果發表、合同八十七件、合同計畫九件、比前回三十四件増

△朝鮮荷造包裝協會創立

二十日

△鮮米の揚地に三千浦・長崎追加

△石油の標準價格統一告示

二十二日

△朝鮮金融團臨時總會開催、重要産業資金共同融資基本要綱決定

△殖産局は水産報國運動の實行計畫案を決定、全鮮各漁業組合に要旨通達

二十三日

△農林局は昭和十八年度以降十ヶ年計畫で棉花第二次増産計畫を樹立すべく目下各道の増産可能量及耕作擴大能力に付調査中

△東拓は朝鮮に於ける農業生産力擴充と地下資源開發の爲農地調査委員會及地下資源調査委員會を常設することに決定

二十五日

△第三回朝鮮臨時米穀調査委員會開催、米穀の需給調査、食料の確保並米價對策等に付協議

△鴨綠江水力電氣水豐發電所第一號機滿洲國側へ正式送電開始

△旭硝子會社の朝鮮進出愈々具體化し近く清津に新工場

建設の進展

二十六日

△農林局は本年度以降五ヶ年計畫で二毛作麥増産を圖るに方針決定

△農林局は明年度以降五ヶ年繼續事業で總經費七十三萬圓を投じ鮮内主要地域に於ける河水統制實施を決定

二十七日

△農林局は本年度の豚及兎の増殖獎勵補助費六萬六千七百圓の各道割當交付を決定

△價格統制令第七條の規定により朝鮮牛の最高販賣價格指定、九月五日より實施

二十八日

△本府は昭和十七年度以降二十一年度までの第二次五ヶ年生産擴充計畫を樹立すべく目下企畫部中心に原案作成中

△鴨綠江水電第一回社債引受シ團メンバー決定

二十九日

△農林局發表 昭和十五年度中の桑苗蠶種生産高及母蛾検査高實績は桑苗生産數八千三百七十八萬一千八百七十七本、蠶種製造數量百十九萬六千九百九十四枚

△漢城銀行臨時株主總會開催、慶尙合同銀行買收の件可

決

△朝鮮蠶業令施行規則中改正公布

△朝鮮蠶糸統制會社設立認可申請中

三十日

△農林局は秋季農繁期に於ける農村勞働力調整の萬全を期すべく女子・學生・兒童對策等の秋季勞務要綱を各道に通牒

△京城電氣株式會社と金剛山電氣鐵道株式會社との合併假契約調印、比率十對九

△會社所有株式評價臨時措置令施行

昭和十六年九月

一日

△鴨綠江水力電氣會社水豐發電所第二號機朝鮮側への送電開始

二日

△農林局は本秋蠶繭販賣價格を各共同販賣所共五十六掛に決定各道に通牒

△朝鮮商議並朝鮮貿易協會は第三國貿易業者の維持救済策を本府に建議善處方を要望

△本府水産課は明年度以降十ヶ年計畫で全鮮各道に淡水魚・鯉の養魚場設置を計畫

△トラツク統制に呼應して朝鮮貨物自動車運送事業組合設立

三日

△本府は各道糧穀配給統制組合を解消し新に各道に糧穀配給統制會社を設立せしめ糧穀配給統制強化を圖るに方針決定

△朝鮮鮮魚普及協會結成

四日

△農林局は全鮮農村に於ける米類・麻類・果樹類・畜禽類等五十六種に亘る農産物・畜産物に付現下投下中の單位勞力量を調査することに決定し大體本年十月十日まで完了せしめる豫定

△朝鮮勞務協會は南鮮七道に各一ヶ所の勞務者訓練所を新設決定、本年度中に慶南・全南に各一ヶ所宛開設

△海運統制令第八條第一項の規定により朝鮮積穀物及荷物の運賃標準率指定

五日

△農林局は水稻收穫後に於ける麥の二毛作獎勵による増收を圖るべく本年秋より五ヶ年計畫で南鮮七道に積極的に獎勵實施するに方針決定

△本府水産課は明年度以降に於ける朝鮮漁業の重點を淡

水魚の養殖、干潟海淺の利用、罐詰増産の三點に置くことに方針決定

△朝鮮中央肥料配給統制組合臨時總會開催、組合機構改造案附議可決即日實施

六 日

△昭和十五年中の道・郡・島農會の肥料共同購入斡旋高は數量三十四萬五千噸、金額四千二百二十二萬圓、前年度に比し數量一萬一千噸減、金額六十一萬八千圓増

△朝鮮に於ける更生金融實施方策に關する殖産・財務兩局の意見一致近く公表する豫定、更生金融目標額は差當り二百萬圓とし會社に融通せず個人に融通する方針

九 日

△農林局は昭和十五年度より實施する六ヶ年計畫六百八十萬石米穀増産目標を十ヶ年一千萬石増産計畫に改め從來の耕種法改善を土地改良と耕種法改善兩方併行することに方針決定

△漁業組合中央會第十三回評議員會開催(八日より十日まで三日間)、漁業用物資配給に關し協議

△金屬類保有狀況調査を本月二十五日午前零時を期し全鮮一齊に開始することに決定

△朝鮮石綿スレート協會創立

十 日

△殖産局は織物統制の完璧を期すべく既存の人絹工業組合・染色工業組合を改編し各道單位の織物工業組合を創設し中央組合として聯合會を設置することに方針決定

△殖産局は石綿スレート配給統制要綱を決定、十月一日より實施

△價格等統制令施行規則及海運統制令施行規則中改正施行

△價格等統制令第四條の二の規定により修繕料等及年月日(昭和十六年八月十一日)指定

十一 日

△農林局は明年度以降五ヶ年計畫で毎年一萬町歩宛五萬町歩の改田計畫を樹立し雜穀増産を圖る方針

△朝鮮總動員聯盟は時局下に於ける國民皆勞運動實施要綱を發表、實施期間九月二十一日より十一月二十日ま

七男子十四歳以上四十歳未滿、女子十四歳以上二十五歳未滿に適用

△京畿道金屬工藝組合創立

十二 日

△本府は昭和十七米穀年度の半島食糧對策要綱を發表、要綱内容は統制の對象、統制の主義、糧穀基準消費量

其他九項目

十三 日

△農林局は本年産棉花共販價格を前年通り八十五圓に据置く方針決定

△貿易統制令施行規則に基き對佛印輸出入調整機關として朝鮮貿易振興會社を指定

△農林局は鴨綠江上流地方の未踏大處女林を開發すべく實地調査隊を派遣

十五 日

△遞信局は釜山雄基に至る東海岸各港相互間並釜山群山に至る西海岸各港間の雜貨公定運賃を設定實施

△朝鮮商業銀行臨時株主總會開催、大邱商業銀行の營業讓受到關する件附議可決

十六 日

△本府は油肥聯の九月分申込鰯油配給數量査定の結果二十六萬罐に決定

△朝鮮小兒保險令閣議に於て決定、十月一日より實施

△價格等統制令第七條の規定により内地産人絹織物の最高販賣價格指定

十七 日

△本府企畫部は朝鮮の第一次生産力擴充計畫完了に伴ひ

引續き昭和十七年度を基點として第二次生産力擴充計畫案を作成中

△價格等統制令第七條の規定により朝鮮油紙最高販賣價格指定

十八 日

△本府燃料課は家庭用石炭の配給圓滑を圖る爲本年下半期を二期に區分し各期の各道に對する割當量を定めるに方針決定

△本府は本年末佛印・泰國に鮮産品見本市を開催し鮮産品を紹介することに決定

△價格等統制令第七條の規定により中古品たる書籍の最高販賣價格指定

十九 日

△價格等統制令第七條の規定により内地産タオル製品並朝鮮産蔴蠶種の最高販賣價格指定

二十 日

△農林局は昭和十七年度より朝鮮に於ける自作農創定第二次計畫(十ヶ年十萬戸の自作農を創定)を樹立

△農林局は明年度より速成樹種の育苗を全鮮的に行ひ樹苗の自給自足を圖るに方針決定

△朝鮮に於ける更生金融制の大綱決定、十月末より實施

の豫定

△朝鮮商議調査によれば現在全鮮の行商人數約九千人、
 譯天商人約六千人
 △京城電氣株式會社臨時株主總會開催、金剛山電鐵との
 合併承認の件可決

二十二日

△殖産局は移入馬鈴薯澱粉の第二回各道割當量四萬七千
 七百四十九袋(前回に比し三千七百四十九袋増)決定
 各道に通牒

二十四日

△本府土地改良課は土地改良營團(假稱)を新設し明年
 度以降増米に拍車をかくべく之が豫算編成中

△各道物價連絡會議本府に開催、各道提議の價格公定に
 關する諸問題に付討議

二十五日

△本府は生鮮・蔬菜・食料品の出荷配給統制要綱を發表
 △和信傍系會社の和信連鎖店(資本金二百萬圓)鮮一紙
 物(資本金二十五萬圓)和信貿易(資本金二百七十五
 萬圓)三社合同の和信商事株式會社(資本金五百萬圓)
 創立

△財務局は金融組合整理方針を決定各道知事及關係方面
 に通牒

△殖産局調査 全鮮の宅地建物等價格統制令に基く許可
 認可申請受理件數四百七十二、内許可認可三百八十九
 件

△朝鮮中央無盡株式會社臨時株主總會開催、釜山無盡株
 式會社と合併の件可決

△株式會社和信臨時株主總會開催、大同興業(資本金二
 百萬圓)吸收合併の件可決

二十六日

△朝鮮殖産銀行令改正閣議に於て正式決定、改正要旨は
 債券の割引發行認可及社債發行を政府保證のものに限
 り制限撤廢

二十七日

△價格等統制令第七條の規定により實棉最高販賣價格指
 定、陸地棉一斤一等二十七錢、二等二十四錢、在來棉
 一等二十二錢、二等二十錢

△朝鮮住宅營團債券一千萬圓發行決定、利率三分六厘、
 償還期限二十年、大藏省預金部引受

△國民勞務手帳法明年一月一日より朝鮮に實施決定

三十日

△漢城銀行株主總會開催、慶尙合同銀行との合併案可決

△鑛業設備獎勵金交付規則及探鑛獎勵金交付規則改正

△金屬類回收令施行規則公布、十月一日より施行

△港灣運送業統制令施行規則公布、十月一日より施行

昭和十六年十月

一日

△朝鮮金融團協定預金利率引下げ實施、定期預金甲種年
 三分四厘以下、一厘引下げ、乙種年三分七厘以下、二
 厘引下げ

△小兒(簡易)保險開始

二日

△朝鮮送電株式會社臨時株主總會開催、物上擔保付社債
 總額三千萬圓發行の件可決

△朝鮮火藥共販會社近く設立し鮮内火藥の配給統制を行
 ふに決定

三日

△拓務省發表 朝鮮に於ける昭和十六年度産米の生産獎
 勵金石當四圓(獎勵金三圓買上價格引上一圓)交付す
 ることに閣議に於て決定

△殖産局は昭和十七年度より第二次産金増産計畫を實施
 すべく目下具體案作成中

△鮮内全業者を打つて一九とする朝鮮小運送會中央會創
 立

四日

△金融組合聯合會は朝鮮金融團の金利引下げに追隨し定
 期預金及普通貸出金利を引下げ十月一日に遡及實施
 △本府は明年度より京城府を七區に分け區制を實施する
 ことに内定

六日

△朝鮮殖産銀行令中改正の件(重要産業資金供給に關す
 る制令による政府保證債券の發行限度の制限撤廢等其
 他)公布

△朝鮮獸骨配給統制規則公布十月十五日より施行

八日

△朝鮮中央酒類配給統制組合創立

△本府は水原・鐵原に商工會議所設置認可内定

十日

△旅客自動車運送事業組合創立

△京畿道洋服商業組合創立

△本府は本年度内に資金百萬圓を以て不良産業組合の整
 理強化遂行決定

十一日

△本府は被服既製品類の配給統制を十一月一日より實施

十三日

△各道産業部長打合會開催、明年度に於ける糧穀の各道需給推算並割當量其他の件決定

△朝鮮に於ける昭和十六年度の商業組合事業資金大藏省預金部と折衝の結果三十萬圓積銀經由貸出決定

十四日

△朝鮮簡易生命保險積立金の預入による預金部資金融通規則を一部改正(第五條中の朝鮮金融組合聯合會を朝鮮金融組合聯合會及朝鮮住宅營團に改め又朝鮮金融債券を朝鮮金融債券又は朝鮮住宅債券に改む)

十五日

△各道肥料配給統制打合會開催、昭和十六肥料年度の販賣肥料道別、配給者別割當其他に付協議

△仁川石炭荷役作業會社(資本金百萬圓)創立

△明年度に於ける朝鮮産米糠の内地移出七萬噸に決定

十六日

△朝鮮織物移入組合はス・フ、人絹織物の不足に對應し絹織物の増配方を内地輸出機關へ要望し更に富士絹並更生絲織物の移入方を本府に要請

二十日

△本府は農村に於ける天引貯蓄の實施要綱を決定、糧の共販に對する天引貯蓄率は一畝(五斗八)一圓七十錢

二十一日

△本府農政課は臨時農地管理令に基く農地作付統制を朝鮮にも實施すべく立案中

△東亞經濟懇談會朝鮮委員會總會開催、農業、水産、鑛業等十部門別協議會設置

二十二日

△本府は米の生産獎勵金の交付方法内容を決定、交付内容は自作農の自作米、小作米の残りの米に對し石四圓交付し小作米に對しては小作人に對し三圓の獎勵金、地主に對しては一圓の引上分を交付

△鐵道局は朝鮮運送會社を明年度特殊會社化せしむること決定

△朝鮮運送株式會社臨時株主總會開催、現在資本金一千二百萬圓を三百萬圓増資一千五百萬圓となす案可決

△國民職業能力申告令第二條第六號の要申告者に關する申告の特例に關する件公布、十一月一日より施行

二十三日

△農林局は昭和十七米穀年度の食糧對策實施要綱を發表、要綱内容は道糧穀株式會社設立、糧穀加工業の統合、

統制米の獎勵金交付等

△本府は鮮内火災保險料率を十一月一日より引下げ實施

△農林局は麥作の積極的増産を圖るべく明十七年度の増産目標を本年より百萬石増加の一千四百萬石に決定

△本酒造年度の釀造數量は燒酎・濁酒のみ二割増釀に決定

二十四日

△本府は半官半民の農地開發營團を創設し明年度より昭和二十八年迄十二年間毎年土地改良三萬町歩、干拓二千町歩を完成し一千萬石増産へ邁進する計畫

△朝鮮織物協會は京城府内各纖維團體を糾合し纖維會館を建設計畫

二十五日

△朝鮮電力會社は豆滿江水系西頭水發電工事に近く着手する豫定完成期昭和二十二年、總工費二億餘萬圓

△第八回朝鮮工業者大會京城に開催、當面の重要案件に付検討

△朝鮮郵船第五十九回定時株主總會開催、現在資本金一千萬圓を五百萬圓増資一千五百萬圓となす案可決

二十七日

△本府は昭和十七米穀年度に於ける糧穀資金融通要綱を

決定各金融機關に通牒

△殖産局は營業の免許制を朝鮮にも實施すべく目下商工省と折衝中

二十八日

△自動車整備用部分品配給統制規則公布即日實施

△鮮内在籍保險會社及内地の支店・代理店等三十三社を一丸とする損害保險協會創立

△朝鮮鑛業振興其他十六關係會社發起による朝鮮鑛業鉛鑛業組合設立決定

二十九日

△朝鮮生藥統制株式會社創立

△價格統制令第七條の規定により朝鮮産厚地既製服の最高販賣價格指定

△重要産業統制令に基く化學工業統制會には朝鮮側不参加と決定

三十日

△朝鮮國民貯蓄組合令及同施行規則公布、十一月一日より施行

△朝鮮殖産銀行臨時株主總會開催、朝鮮重要産業資金供給に關する制令改正に伴ふ定款一部變更の件可決

三十一日

△本府は金屬回收令による回收機關を朝鮮廢品統制會社外四十四名指定

△朝鮮電力株式會社第十三回定時株主總會開催、六萬ボルト以下送電線及變電所施設を南鮮合電に譲渡の件附議可決

昭和十六年十一月

一 日

△米穀の種類、銘柄及等級別最高販賣價格指定即日實施

△煙草値上げ實施、値上げによる年增收二千二百萬圓

△火災保險新料率(新料率は從來協定料率の一割八分乃至二割引下げ)實施

△朝鮮興農會は京日(本年度三萬圓)東拓(五萬圓)を以て財團法人設立

二 日

△二日より二日間豊年祭執行

四 日

△第一回全鮮商工相談所協議會開催、京城商議提出の半島人勞務者の技術向上其他三十四議案に付審議

△港灣運送業統制令に基く指定港(馬山・長項二港)追加さる

五 日

△第二十九回朝鮮簡保事業諮問委員會開催、昭和十七年度積立金運用計畫(運用計畫總額三千三百萬圓)並昭和十六年度積立金資金第三回融通額四百九十七萬七千五百六十四圓内定

六 日

△本府は十一月分砂糖割當額六萬擔(比前月八千擔増)と決定、家庭用六五%、加工用三五%

△朝鮮燐礦株式會社現在資本金四百萬圓を一千萬圓に増資内定

七 日

△朝鮮蠶絲統制令原案なり近く中央と折衝の上早速實施する方針

八 日

△農林局は昭和十七年度各道吠生産目標を前年同様一億枚に決定

十 日

△住宅對策第三回委員會開催、本年十月より明年九月迄の一般住宅資材の各道割當決定

△學校卒業者使用制限令による朝鮮への技術者一千二百五十九名(總要求數六千三百九十九名)割當決定

△殖産局は本年度第四回分ゴム靴三百二十萬足(比前回

四百五十萬足増)各道割當決定

十一 日

△東拓及大同製鋼合作による朝鮮製鐵株式會社(資本金一千五百萬圓、四分一拂込)創立

△朝鮮水力電氣の西頭水力發電工事認可

△國產自動車工業株式會社は永登浦朝鮮自動車工業を買収すべく(買收價格五十萬圓)目下認可申請中

十二 日

△本府は明年度より十ヶ年間毎年二千五百戸宛計二萬五千戸の自作農創定第二次計畫を樹立

△朝鮮商議附設中央商工相談所主催の中小商工業者金融懇談會開催、中小商工業者に對する損失補償制度問題及金融の實際問題に付意見交換

十三 日

△昭和十六年四月一日以降九月迄の貯蓄増加額は私人有價證券投資一億圓を除く金融機關の貯蓄目標五億圓に對し一億三千七百三十四萬五千圓で目標額に對する六ヶ月間貯蓄歩合二七%、因に昭和十五年度同期に於ける蓄積歩合三七%に比し一二%鈍化する

△京城府食糧配給組合は京城府糧穀配給組合に改組認可さる

△銀行等資金運用令施行規則改正、軍需手形は其適用より除外することゝなつた。

十四 日

△財務局は本年度米穀資金三千萬圓殖銀(一千七百萬圓)鮮銀(一千萬圓)東拓(三百萬圓)への割當決定

△本府は半官半民出資による資本金一千萬圓の農地開發營團を設立し明年四月頃開設の豫定

△朝鮮中央酒類配給協議會開催、京城他四稅務監督局管内の地方別酒類配給組合への十二月以降明年二月迄の三ヶ月間配分量を決定

十七 日

△財務局は朝鮮に於ける間接稅増稅案大要を發表 十二月一日より實施、増稅による昭和十六年度增收見込額一千三十九萬四千餘圓、平年度增收五千二百萬餘圓
△農林局は米倉五千四百坪、農倉六千六百坪、合計一萬二千坪各道建設割當決定
△薬工品需給調整規則第九條の規定により吠の最高販賣價格指定され昭和十五年本府告示一千二百五十一號廢止さる

十八 日

△本府の機構改革により殖産局・企畫部改組・厚生・司

政兩局新設、内務局外事部廢止さる

二十日

△鐵原商工會議所設置方道に認可申請中

二十二日

△財務局發表 會社經理統制令の運用方針を内地に順應して追加

△本府は土木建築並電氣工事請負業者に對し商業組合令を適用せず工業組合令を適用することに決定各道知事に通牒

△京城電氣と金剛山電氣鐵道との合併正式に認可

二十五日

△朝鮮水力電氣株式會社定時株主總會開催、同社配電事業及之に關する事業設備を北鮮合同電氣に譲渡の件其他可決

△北鮮合同電氣株式會社臨時株主總會開催、朝鮮水力電氣事業譲渡並資本金一千九十九萬圓を六十萬圓増資一千五百萬圓となす案可決

二十六日

△殖産局は本年度共同作業場設備補助金二萬九千七百五十圓交付決定各道に通牒

△殖産局は内地に準じ鑛石配給統制規則を制定すべく目

下具體案研究中

△朝鮮中央無盡株式會社の咸北無盡(二十二日調印)及咸南無盡(二十四日調印)兩社との合併契約調印を發表

二十七日

△殖産局は明十七年度以降十ヶ年計畫で全鮮各道に養魚場を設置し淡水魚九百萬尾の増産を計畫

△東拓は北鮮高地帯開拓に乘出し、明年度より一ヶ年一千戸宛十ヶ年一萬戸を開拓移住せしむる計畫

二十八日

△本府は金銀細工業者への代用資材千二百三十二種各道割當決定、各道に通牒

△朝鮮郵船株式會社(現在資本金一千萬圓)五百萬圓増資正式認可

二十九日

△朝鮮木材統制會社(資本金一千萬圓、半額拂込)第一回發起人會開催、定款・株式割當創立費等決定

△本府は全鮮四十七の弱體産業組合を解散整理せしむることに決定

昭和十六年十二月

一日

△朝鮮住宅營團債券二百五十萬圓大藏省預金部引受第一回分發行

△國民勤勞報國協力令施行規則公布施行

△朝鮮火藥共販株式會社(資本金二百萬圓)創立

二日

△朝鮮水産開發株式會社は臨時株主總會を開催し朝鮮鑛産株式會社買収案を附議決定

△藥繩最高販賣價格指定

△昭和水利組合設立發起人會開催

三日

△本府は内地に順應し水産資源確保の爲水産統制令を制定すべく目下立案中

△陸運統制令施行規則改正、五日より施行

四日

△全鮮二十四商工會議所附設商工相談所に於ける十月中の相談件数は四千四百五十四件、内譯商取引紹介斡旋一千十四件、轉業相談八十六件其他

五日

△昭和十四年朝鮮總督府令第二百二十六號(米穀配給統制に關する件)第一條第二項の規定により米穀の種類、銘柄及等級別最高販賣價格指定

△朝鮮漁業組合中央會第五回通常總會開催、滿洲向鮮魚輸出許可を漁業組合單位に許可方本府に要望

△朝鮮に於ける公共團體又は營利を目的とせざる法人若は組合に對し昭和十七年度に於て朝鮮簡易生命保險積立資金を融通する事業の種類、融通原資總額及利息決定、融通原資總額二千八百五十萬圓

六日

△朝鮮商業組合中央會の設立に關する件公布即日實施

△朝鮮電力會社債第一回分五百萬圓發行決定

八日

△朝鮮蠶絲統制株式會社(資本金五百萬圓、四分一拂込)創立

九日

△本府は昭和十五肥料年度下半年に於ける重要肥料助成金百三萬一千九百八十五圓決定

△本府當局談話を以て半島の非常時金融諸對策を發表

十日

△各道知事臨時會議開催、半島決戰體制の完壁確立に付協議

十一日

△十一月末現在の本年度中小商工業資金融通承認額は自

己資金百五件、百七萬二千七百四十五圓、預金部資金三百八件、三十一萬三千七百九十五圓、計四百二十二件、百三十七萬六千五百四十圓、比前年同期三百五十七件、百二十三萬六千三百四十圓増

△京畿道食料品卸商業組合創立

十二日

△本府水産課調査 昭和十五海産年度(十五年十一月より十六年五月迄)に於ける鮮内海苔養殖状況は、養殖面積二千五百十二萬八千四百三十二坪、生産額八百萬七千三百三十六圓、一千六百七十九萬八千七百六十六圓
△本府は商・工業組合役員任命を認可制と改定
△沙里院商工會議所設置認可

十三日

△昭和十五年中に於ける水産製品總検査高は一千三百八十六萬八千五百十箇で検査合格數量は一千三百三十四萬二千九百九十二箇、金額一億五千九百九十九萬九千九百九十一圓
△京城商工組合聯合會臨時總會開催、解散に關する件を決議

十五日

△價格統制令第七條の規定により内地産統制國民服中衣の最高販賣價格指定

△京城食料品小賣商業組合創立

十六日

△朝鮮商工會議所臨時總會開催、會頭及副會頭選任並中小商工業者對策に關する件附議決定
△朝鮮中央無盡株式會社臨時株主總會開催、咸南北兩無盡會社合併に伴ふ諸議案附議決定
△忠南大田府郊外に於てコバルト鑛(鑛域二百萬坪)發見さる

十七日

△朝鮮商業調査規則及朝鮮工業調査規則公布即日施行
△朝鮮商業調査規則による業種分類及商品分類其他指定さる
△朝鮮工業調査規則による生産品名及主要事業の分類其他指定さる

△防空法朝鮮施行令及防空法施行規則改正公布、二十日より實施

十八日

△農林局調査 昨年中全鮮に於ける家畜類及同加工品消費高は一億三千五百四萬四千九百八十三圓、前年に比し三千八百七十九萬三千六百二十二圓増

十九日

△本府は明年一月一日より板硝子の配給統制を實施決定
△日本通運會社は朝鮮沿岸海上輸送に對し戰爭保險を附するに決定
△船員徵用令施行規則改正公布、二十日より實施
△朝鮮松脂工業組合設立決定

二十日

△朝鮮綿布統制委員會開催、明年一月以降三月迄の綿布生産及配給數量決定
△平南江西郡甌山に優秀の燐鑛床發見さる

二十一日

△昭和十二年法律第九十二號第二條の規定により鐵製品製造制限規則公布、二十五日より施行

二十三日

△京城府は明年度より二十年間に公設市場五十軒増設を計畫

二十四日

△農林局は緊急食糧増産對策の爲桑田・果樹園整理等の作付轉換實施方策を決定各道に通牒

△本府は中央當局と折衝し鮮内別箇に産業設備營園を設置せし内地營園を活用するに決定
△朝鮮に於ける企業許可制による業種四百八十三種指定

さる
△東亞經濟懇談會朝鮮委員會並朝鮮貿易協會主催の貿易懇談會開催、半島貿易の新體制確立に付協議

二十五日

△新聞事業令實施

二十六日

△鐵道局は全鮮二十二合同運送會社の朝鮮運送への合併比率準則決定

△朝鮮窒素會社の日本窒素會社との合併正式決定

△京城紡織株式會社時株主總會開催、現在資本金五百萬圓を一千萬圓に増資決定

△水原商工會議所設立認可

△企業許可令施行規則公布即日施行

△朝鮮臨時保安令及同施行規則公布即日施行

二十七日

△殖産局は現行朝鮮商工會議所令を廢止し決戰體制下に於ける強力なる經濟會議所令を制定すべく目下準備中

二十九日

△昭和十六年度の人造石油製造事業に對する獎勵金額決定、水素添加法により製造したる人造石油第一種一キロ立七十一圓、第二種同二十六圓其他

- △敵產管理法施行規則公布
- △朝鮮鑛石配給統制規則施行
- △製鋼及鐵製造獎勵金交付規則公布

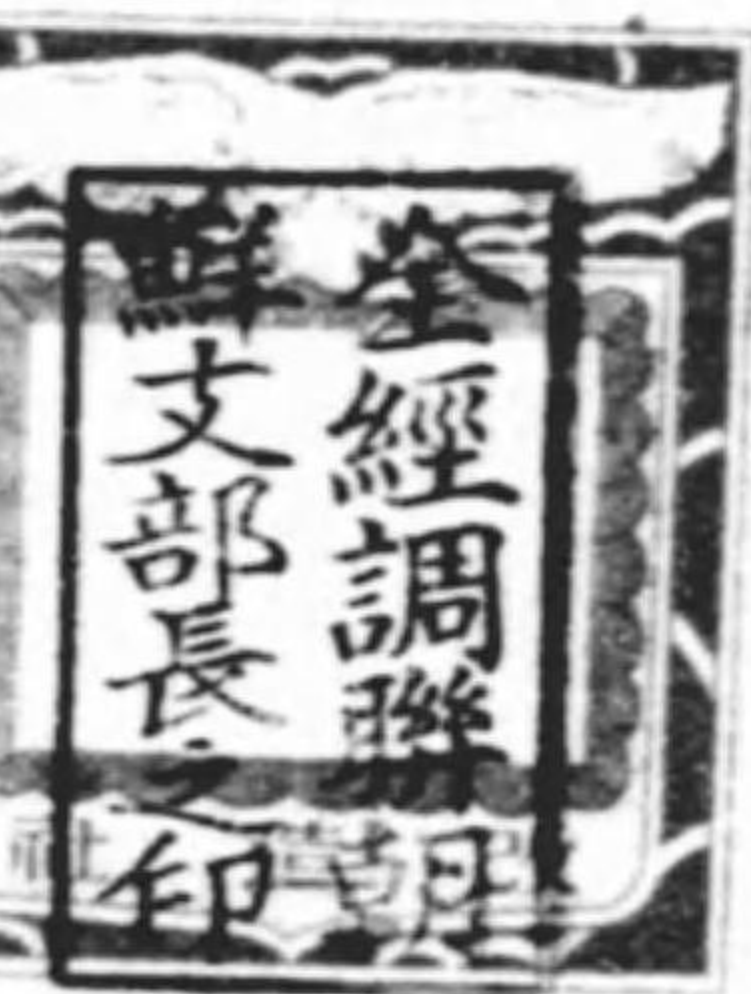
昭和十八年三月十六日 初版印刷
 昭和十八年三月十九日 初版發行

(五〇〇〇部)

(昭和十七年版)
 朝鮮經濟年報

〔定價參圓五拾錢〕

(出文協承認)



編者 全國經濟調查機關聯合會 朝鮮支部

代表者 澁谷恒治郎

發行者 山本三生

印刷者 渡邊丑之助

東京市芝區新橋七ノ十二

(郵東二五)

發行所

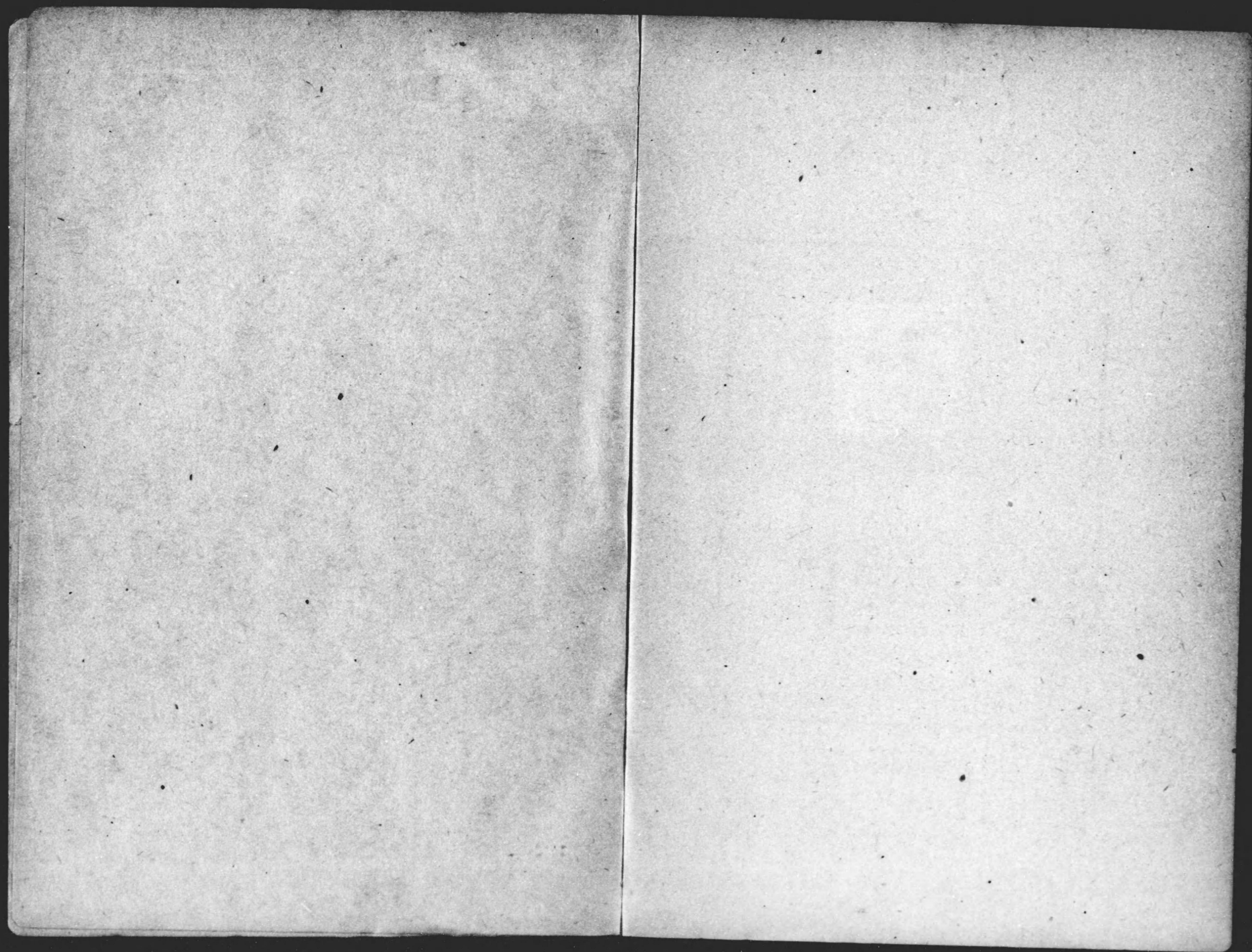
東京市芝區新橋七ノ十二

改造社

振替東京八四〇二番
 電話(芝)二三一一二四番
 會員番號一〇六〇六七番

配給元

日本出版配給株式會社
 東京市神田區淡路町二ノ九



CL.

NO. 46584

46584

